



# ぶらり らいぶらりい

～図書室にはこんな本があります～

No. 143

★利用者からの質問をもとに昭和館図書室の資料をご紹介します。  
(書名の後の( )の数字は請求記号です。)

問)「大陸の花嫁」について調べたい。

答)「大陸の花嫁」をキーワードとして検索してみます。

図書 → ことばから調べる → 大陸の花嫁 → 30件

30件の内、開架のマークがある閲覧室の図書は7件です。書架から探して自由にご利用ください。

他は書庫にありますので、これらの資料を利用する場合は、タイトルをクリックし、画面左下方の請求票出力をクリックしてください。請求票がプリントされます。利用カードとともにカウンター係員にお持ちください。

以下はすべて開架書棚の図書です。

	『満洲「大陸の花嫁」はどうつくられたか』(334/A22)
	『「満州」に送られた女たち“大陸の花嫁”』(210.75/Ky4/12)
体験記	『海外引揚者が語り継ぐ労苦15』(916/H51/15)
写真集	『ある報道写真家の見た昭和30年史』(210.7/Ka18)
現地報告記事	『新聞集成昭和史の証言 第13巻』(210.7/Sh59/13)
児童書	『いのちを学ぼう「平和学習実践集」3』(375/I55/3)
(参考)	『昭和 第5巻 一億の「新体制」』(210.7/Ko19/5)

※『大陸の花嫁』とは、日中戦争期に満州に渡った移民、及び開拓団員の花嫁として中国大陸へ向かった女性のこと。国の施策として移住した独身男性のために、花嫁を募集した。

図書室には、書棚に並んでいる図書以外にもたくさんあります。

検索端末を使って、読みたい本を探してみてください。

操作方法等、カウンター職員までお気軽にお問い合わせください。

## 「コンクリート」で出来た船 たけちまる ～武智丸～

コンクリートで出来た船、といってもあまりイメージがわからないかもしれませんが、諸外国では、第一次世界大戦の頃から鋼材の不足を補い船の生産量を増やすためにコンクリート船が建造されてきました。日本では、太平洋戦争が始まって、コンクリート船のことが話題にのぼることはあってもなかなか研究は進展しなかったようです。これは協力しあうべき造船家と土木技術者がお互いの専門分野の知識に疎かったことが原因であったようです。

日本の海軍省は昭和 17 年の暮頃からようやく、油槽船(油を運ぶために造られた船)の急遽増産計画を始めると同時に、鋼材を節約したコンクリート船の建造計画にも着手しました。主として舞鶴海軍工廠が研究をすすめ、試作的に舩(はしけ)を姫路の近くの曾根に新設された武智造船所で建造しました。所長であった武智正次郎氏は本来土建業者でした。

この舩は動力のない、ほかの船に曳いてもらい航行する船でしたが、この船が有効と判断され、昭和18年12月、自航できる貨物船を3隻建造することとなりました。大きさは船内容積が800総トン、積載重量980トンで、型式は当時の戦時標準船E型(戦時中は商船を国内で同一規格で建造しました。A～E まで型式があります)と同じ、主として日本近海の家軍用石炭輸送を任務としました。昭和19年7月に完成引渡となった第1号船は「第一武智丸」と命名され、つづいて残りの2隻も第二・第三武智丸として完成しました。

コンクリート船の特徴は、①所要鋼材量が少なく、戦時標準船E型と同型でありながら容積が大きく②建造工場の設備が簡素にでき、③標準船E型より航洋力が高く、④修理が簡単(軽微なヒビにはコンクリートを塗ればよい)ですが、⑤重量が鋼船より増したため積載重量が少なくなった、⑥コンクリートを流し込むための木材消費量が増え、⑦吃水(船が浮かんでいるときの水面から船底までの長さ)が深くなり、座礁した場合の危険性が高まるなどの欠点もありました。

三隻の武智丸は海軍の雑用船として、瀬戸内海の大坂・若松～呉間で石炭だけでなく雑貨などの輸送にも従事していたようです。第三武智丸は戦時中機雷に触れ沈没しましたが、第一・第二武智丸は今も呉市の安浦港の防波堤として活用されています。

【参考資料】 海軍造船技術概要 (550/Ma35/5 閉架書庫)  
戦時造船史 (550/O67 閉架書庫)  
昭和造船史 第1巻(550/N71/1 閉架書庫)  
呉・江田島・広島戦争遺跡ガイドブック  
(392.17/O55 閉架書庫)



今も残る第一・第二武智丸(安浦町ホームページより転載)

—図書室から—

3月1日(木)より14日(水)まで、資料整理・点検のため図書室及び5階映像・音響室は休業させていただきます。その間にご迷惑をおかけしますが、ご理解のほど、よろしくお願いいたします。

ぶらりらいぶらりい～図書室にはこんな本があります～ NO. 143

2012年2月21日 発行/ 編集・発行 昭和館 図書室〒102-0074 東京都千代田区九段南1-6-1